

みなとまち新潟 歴史探訪 49

問 歴史文化課
☎025-226-2583

「新潟」の登場

「新潟」という地名は太古の昔からあったわけではなく、今から500年前ごろに登場しました。高野山清浄心院の記録によれば、永正17(1520)年に「新方(新潟)」の人が寺に供養を依頼しています。これが今のところ「新潟」という地名の最も古い記録です。

それでは新潟はどこにあったのでしょうか？魚沼市弘誓寺の不動明王座像底部の墨書銘によると、この仏像は「越後国蒲原郡平嶋之郷新潟津」の不動院の本尊で、永禄9(1566)年に造られたとあります。不動院は現在も西堀通(中央区)に存在し、前出の記録では天文9(1540)年ごろから新潟の住民の供養の取り次ぎ役をしています。

「平嶋之郷新潟津」の「平島」という地名は、西川と信濃川の合流地点に今もあります。近くには焼鮎(西区山田)や逆ダケの藪(中央区鳥屋野)など、親鸞聖人來訪の伝説の地もあります。つまりこの頃の新潟は、西区の平島付近にあった川湊の町であったと考えられるのです。



戦国時代の新潟の位置



魚沼市弘誓寺不動明王座像墨書銘(渡辺康文氏撮影)弘誓寺所蔵



運動普及推進委員が紹介 おすすめ ウオーキングコース ⑦

このほかのコースはこちら▶



福島潟放水路(北区)

問 健康増進課(☎025-212-8166)

福島潟から新潟東港付近まで続く放水路の両側の道路は、格好のウオーキングコースです。起伏のある道を歩きながら、美しい建造物や遠くの山並み、田んぼの風景などが楽しめます。

出発地点の水の駅「ビュー福島潟」は、建築家の青木淳氏が設計したものです。巻き貝が土に刺さったような建物は、権威ある日本建築学会賞を受賞しています。折り返し地点近くの葛塚中学校は、打ち放しのコンクリートと幾何学的な形が印象的な建物です。世界的に有名な建築家の安藤忠雄氏が設計しました。

まだ歩ける人は、椋橋より先に進んでみてください。多くの橋が架かっているので引き返しやすいですよ。



▲運動普及推進委員の鶴巻ヨシ子さんが紹介



▲同放水路は昭和40年代の水害をきっかけに作られた。普段はせき止められていて、洪水のときに漏の水を放流する

コース概要 水の駅「ビュー福島潟」(前新田乙)から折り返し地点の椋橋(太田甲)まで往復約3.2km、約50分。出発地点の近くには水の公園福島潟、遊水館、菱風荘などがある

新連載



公共施設を考える① 新潟市の現状と施設再編

公共施設の老朽化が全国的な問題となっており、今後の建て替えなどにかかる費用の増大が懸念されています。新潟市では、市民の皆さんが将来も安心・安全に公共施設を利用できるよう、施設の再編を進めています。

今回は、新潟市の現状と将来に向けた公共施設の課題についてお知らせします。

問 財産活用課(☎025-226-2387)

僕たちと一緒に見ていこう！



こうき

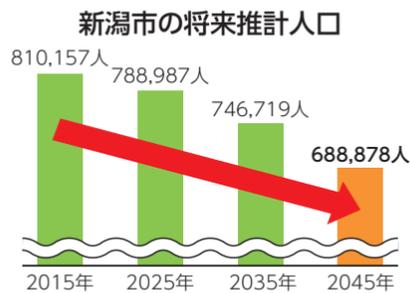
ようこ

その1 なぜ公共施設の再編が必要なの？

A. 人口減少や高齢化が今後も進むからです。

新潟市の人口は2005年をピークに減少が続き、今から約20年後には70万人を下回ると予測されています。また、高齢化もますます進む見込みです。

今後、医療や介護などの社会保障をはじめ、公共サービスや公共施設のあり方を見直す必要があります。



※資料「日本の地域別将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所(2018年3月)を基に作成

30年で12万人も人口が減ってしまったら、ほとんど使われなくなる施設が出てきたりして、必要な施設が変わってくるかもしれないね。



公共施設の再編について詳しくは新潟市ホームページに掲載▶



その2 新潟市の公共施設はどうなっているの？

A. 老朽化が進んでいる施設が多く、このまま使用するには膨大な費用がかかります。

新潟市の公共施設は、人口が増えていた昭和50年代に建てられたものが全体の約3分の1を占めており、改修工事が必要な時期を迎えています。今ある施設を建て替えや大規模改修でそのまま残そうとすると、今後50年間で約9,000億円もの費用が必要となる見込みです。

また、維持費用のほか人件費や光熱費などの運営費用もかかります。人口減少・少子超高齢化が進むと、税収の増加が見込めない一方で社会保障費が増加すると考えられます。施設の運営に充てられる予算の減少が見込まれるため、今ある施設をそのまま残すのは難しい状況です。

これからは、施設にかかるお金とほかの公共サービスとのバランスがさらに大事になってくるね！



いくつかの施設をまとめるなど、効率的に施設を活用していかないといけないね！
次回は施設再編の考え方について取り上げるよ。

